

輪島市復興まちづくり計画策定に係る住民懇談会（諸岡・黒島・阿岸・仁岸地区）
結果概要

日 時 令和6年11月2日(土) 13:30～14:50

場 所 門前会館 3Fホール

出席者 住 民：21名

行政側：輪島市 坂口市長、中山副市長、小川教育長、中村門前総合支所長、中前
総務部長、山本企画振興部長、池腰市民生活部長、刀祢健康福祉部長、永
井産業部長、福尾建設部長、田川建設部技監、木下教育部長、上畠まちづ
くり推進課長

事務局：田中復興推進課長、一本松主幹

① 市長挨拶

（坂口市長）

- 本日はお足元の悪い中ご出席いただきありがとうございます。
- 輪島市復興まちづくり計画については、検討委員会を5月以降これまで5回開催しているところであるが、今後、12月に計画のとりまとめを予定している。計画の内容もだいぶ充実してきたが、本日は皆様から色々な意見を頂戴したい。本日は、お手元の配布資料に基づいて概要を説明させていただきます。
- 黒島には重要伝統的建造物群保存地区があり、また新たに總持寺祖院が国重要文化財へ指定され、当地域にはこれまで以上に全国・世界中から人が集まる可能性があり、門前地域の将来は明るいと考えているし私はそうなれると信じている。一緒に頑張っていきたい。
- また、市議会の議員も来られている。お礼申し上げる。

② 復興まちづくり計画の基本構想（案）等の説明

（市長より資料に沿って説明）

③ 意見交換・質疑応答

住 民：震災から10ヶ月、黒島の景色はほとんど変わっていない。計3軒だけ解体されただけである。重伝建のため迅速な解体処理が進まないのは分かるが、市道にはみ出して交通の妨げがあり、景観上もよろしくない。完全に倒壊している家屋だけでも早急に処理をお願いしたい。土蔵についても、地震時にほとんどが何らかの被害を受けていて、徐々に傾いている中での水害により倒壊したものもある。これも迅速な処理をお願いしたい。

市 長：黒島地区は3軒のみが解体ということだが、市全体としては申請処理済みが住宅として9700棟、そのうち15%が解体完了となっている。門前地域は解体が進められていると思っていたが担当部長より回答する。

田川建設技監：黒島地区では申請が129件、現時点では13棟は壊すように指示済みである。個別案件については確認して早急に対応したい。黒島地区は文化課との協議も必要である点をご了解いただきたい。門前は解体業者80班が動いており、さらに増班を予定している。いずれにしても早めに対応したい。

住 民：計画の説明をいただき感謝する。①個人一人の能力には限界がある。坂口市長が不眠不休で頑張っていたいただいても限界がある。チーム・組織で動くことが重要。トップダウンも必要だがボトムアップも必要かと思う。アンケート結果も公表すると聞いたが、市民の安全に対する意識改革がなければ絵に描いた餅。市民の意識啓発に向けた輪島市の方向性を確認したい。

②関連して、西小学校正門前に暗渠があるが、水門出入り口部分が剥がれて、さらに水害で土圧がかかり水門がふさがれようとしている。その上流にため池が8つあり、ほとんどのため池が経年劣化もあり管理されていなく漏水状態。西小学校の仮設住宅が近隣にあり、水害の危険がある。道下地区ハザードマップによると、ため池が決壊すれば5分で仮設住宅が浸水する危険性がある。対策をお願いしたい。豪雨の際に建設会社から連絡をいただいて仮設住宅から避難した、少し遅れていたら危なかったと思う。早めの対策をお願いしたい。

市 長：①市の取組の方向性についてのご意見を頂いた。復旧復興に向かっていけると感じられる方向性をとることだが、市全体としてはシンボルとしての朝市通り地区の復興が一つあげられるが、中屋トンネルや県道・市道がしっかり通行できること、門前中心地の活性化等が目に見えるように取り組んで行きたい。西小学校水路水門については担当から回答させる。

田川建設部技監：②ご指摘の暗渠は農業用の排水路になるものであるが、情報提供に感謝する。順次災害査定を進めているところではあるが、危険な状態であれば仮復旧工事という手もあるので吟味させて頂きたい。上流のため池を農業用水として利用していないのであればため池を開削して機能を失くすという手もあるので、農業者とも協議の上で対応したい。

住 民：中学生の子どもと一緒に生活しているが、勉強する環境が厳しく、図書館が16時で閉まってしまい、放課後の勉強環境が十分でない状況。18時までの延長をお願いしたい。

木下教育部長：震災後十分な施設状況ではないため迷惑をかけているが、スタッフを確保してできる限り通常営業に戻せるように努力していきたい。

住 民：人口流出について。門前地区の人口は4,000人を割る状況だと思うが、地域の振興策は。事業者の営業再開支援について300万円の助成があるが、新しい策はあるか。

市 長：人口流出は残念だが、震災の中で安心して子育て出来る環境にないと判断されて転出された方が多いと認識。教育環境の充実をしっかりとしていけないと認識している。また生業再興については営業再開支援補助として300万円、1/2上限の支援だが、より手厚くしていきたいと思う。具体の案はまだだが、復興計画の中で考えて行きたい。

住 民：地区に向かう市道が舗装がなされていない状況、これから雪が降る季節で心配。市道の枝線の道路復旧工事の見通しは。

田川建設部技監：市道の復旧については災害査定を順次受けており、年内には査定を終わらせるべく頑張っている。現状は何とか通行できる状況で、舗装までいなくても砕石で仮対応している。舗装業者も市外から入ってきてはいるが国道・県道が優先さ

れ、そちらの対応に力がそがれている。なんとか舗装の仮復旧の指示は出しているが中々追いついていない。冬期には除雪せねばならないが、除雪業者にも危険な箇所は事前に確認してもらうことで対応していきたい。特に市道の枝線については手が行き届かない点もあるが、住まわれている以上は対応していきたいのでご理解をいただきたい。

住 民：公費解体が進んでいるが、新しく住宅を建てる場合に土砂災害特別警戒区域のためにハウスメーカーに聞いたら擁壁を整備しないと建てられないと言われたという話を聞く。市で擁壁など法面对策をお願いしても時間がかかるという話もある。どのような対応を進めようとしているのか教えてほしい。

上島まちづくり推進課長：土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に法律上再建できないということではないし、擁壁必須ということでもない。1階部分をRC造とする等として補強をすれば建てられるのだが、ハウスメーカーのカタログ通りでは対応できないということなのかも知れない。明日の議会で議決頂ければ、レッドゾーンからの移転についての支援メニュー（300万）も用意される。また、補強策に対して150万円、1/2上限の支援もある。改めて制度の周知はさせていただき、市にも確認に来ていただければ説明させてもらう。

住 民：道路整備について。応急復旧していただいたが、大型車が多く通行しており、恒久的な舗装を早期にお願いしたい。北川から千代へ行く道路についても恒久的な舗装整備をお願いしたい。

田川建設部技監：舗装は遅れている状況であるが、確かに交通量が多い道路でもあるので、出来る限り早く対応していきたい。

住 民：保護者から、児童館も使えない、放課後・土日に子どもを遊ばせる場所もないので、公民館を使用出来ないかという話があったが、学校や教育委員会から公民館使用について通知などがあれば鍵を開けて対応も出来るのでお願いしたい。

木下教育部長：地域コミュニティの場として幅広く活用できるよう考えて行きたい。子育て支援策とも連携して考えていきたい。

住 民：児童館がお風呂利用の方で十分使えないという状況である。

刀祢健康福祉部長：遊ぶ場所がないことは聞いており、一方で入浴支援がもうしばらく続くと考えられ、公民館と連携して検討して参りたい。

木下教育部長：公民館も震災で多く被害を受けており、全く使えない地区もあるので、関係地区に限らず幅広く地域の活動の場所として使えるよう地域の協力のもと対応していきたい。

住 民：阿岸地区の是清にある阿岸仮設住宅・公民館の裏に崖地崩落の危険がある。現在は土嚢を積んであるが、崩落危険であり将来に向けて土砂災害対策をお願いしたい。

田川建設部技監：石川県土木部の所管となるので、話をさせていただき、スケジュールも確認してお知らせしたい。

住 民：大雨の影響で深見地区まで車で行けるがそこから奥の六郎木地区の自宅へ荷物などを歩いて取りに行っている。車で行けるようにしてほしい。

田川建設部技監：9月の大雨水害のあと、現地確認しているが、橋も落ちており通れない。現場を見た限りでは早期復旧は難しい感触。申し上げにくい話であるが、かなりお

時間がかかることをご承知おき頂きたい。集落の方で今後も六郎木地区に住み続けたいということかどうかを話し合っていたいただき、その結果も聞かせて頂くこともあるかと思う。

住 民：松風台住宅に住んでいるが、2月に写真送っているときから待っている状況。窓が開かない状況、早急に直して頂きたい。

上島まちづくり推進課長：市営住宅の修繕が遅れているという点については手配はしているがお待ち頂きたい。

住 民：今回の地震で多くが全壊、大規模半壊。公費解体も8月頃と聞いていた予定より遅れている。解体が終わってから生業再興と思っているが、早期に生業再建の見通しが立てられることを希望している。

市 長：公費解体は加速している状況であるが行き届いていないのは残念である。生業を再建される方には解体対応を優先して進めていきたい。生業再建支援策については24年以降でも大丈夫であり、一緒に頑張っていきましょう。

田川建設部技監：多々不手際があったと認識。いまどういう状態になっているか確認して対応していきたい。

住 民：①市道に砂利は敷いてもらったが大雨で流れてしまい、また陥没、マンホールも上がっている。今は通行できているが、冬になれば除雪の必要性も出てくる。舗装してくれれば良いが除雪できるような道路にしてもらいたい。②山林に関して。ごみ処理施設の上流で150mほど崩落している。その上に、ため池300m³のものもあり、ドローンじゃないと調査できないということで、調査していた。工事が難しいと思うがこのままでは危険だと思う。③公費解体について、危険な場所、今にも崩れそうな場所については優先順位を高めてほしい。

田川建設部技監：①市道の件について。除雪対応もあるが、舗装は難しいが、マンホールの浮き上がりについては危険なので上下水道局と連携して対応したい。②崩落対応について。上流には堰堤が入っているが被災箇所把握はしており、何らかの対応は必要との認識である。ため池については、その利用具合を確認し、未利用であれば開削することも選択肢に入るので、農業者と相談してその対応ができるか否かを確認したい。③公費解体は、建物所有者の申請の有無が一番の要件だが、建物の中の動産の取扱にも神経を使う。先ず申請を挙げて頂いているか確認し、その上で隣家や道路河川への倒壊危険性を勘案して、申請順番が基本であれば危険な状態の家は早めにとりかかる、また再築を計画しているかどうか急ぎの対応かを勘案している。いずれにしても申請がないと動けないことはご理解頂きたい。

住 民：地域コミュニティ再建について、県の支援金1,200万+市支援金800万の仕組みを説明して欲しい。

中山副市長：地域コミュニティ再生については、県は最大1200万・総額の3/4上限だが、市が上乗せして最大2,000万円、総額4/5上限とする予定。ただ、対象は集会所としての機能として使うことが前提であり、神社も寺も集会場も全部を支援することはできない。具体には市に相談して欲しい。

住 民：復興まちづくり計画での防災力向上と次世代への継承という点について、輪島市ではこれまで防災士を養成されてきたかと思うが、それらの方の今回地震での活動状況についての評価が必要ではないか。市の職員や公民館職員がメインとなって避難所の運営をされたのかと思うが、防災士全体のうち、どれぐらいの割合の方が活動されたのか。防災士の今後の育成の在り方も検討が必要ではないか。

中前総務部長：防災士が避難所の運営に携わったのはごく少数と認識。行政と地域をつなぐのが役割だったが、詳細が掴めておらず、今後フォローアップ講習などで研修していきたい。

市 長：私の見た範囲では防災士で避難所に詰めて活動されている方はお見かけし、頑張っていたらよかった。今回の地震・水害で、行政の力はいずれ必要だが、初期の段階では防災士の知識を持った方が必要だと思う。そこをもっともっと中身を充実させて、いざあったとき動けるように教育の場を設けていきたい。

住 民：市道が土砂崩れで迂回路を整備していて、幅員を広げてほしいとのお願いもしているが。上にも道があり復旧が難しいと聞いているが復旧がいつごろになるのか教えてほしい。

田川建設部技監：状況は存じている。広田から回っているということだが、崩れている状況を確認すると、山が急峻であり、すぐ下が谷であることで、復旧にはお時間がかかる。残念ながらいつごろまでというのは申し上げられない。災害査定を順次やっている途中で、それが終わった段階で工事に取りかけられる状況となる。改めてご連絡するというご容赦を頂きたい。

住 民：解体後の住宅建設に価格高騰が見られる。これを国県市で補助してもらうことは提案できないか。

上島まちづくり推進課長：住宅建設市場が高騰しているのは事実。各種制度はあるがそれを越える高騰で追いついていない。支援策充実は国・県へ要望しているところであるが、ご理解をいただきたい。また、高齢者向けの融資制度もあり、利用も検討いただければと思う。国・県への支援については要望しているものの実現出来るかどうかは不透明であることをご理解頂きたい。

中前総務部長：被災者向けの格安なモデルを住宅メーカーでも準備しているので、そのような情報を入手しながら再建を検討いただきたい。

以 上

